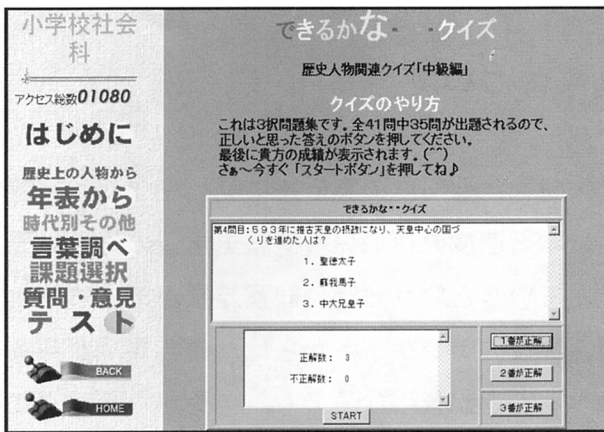
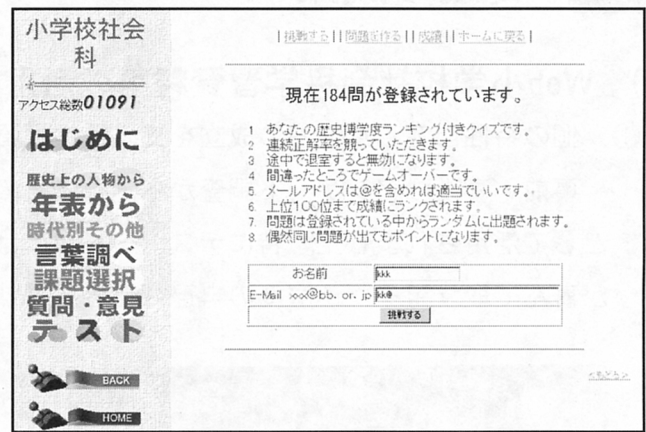


(図 8-③)



(図 8-④)



6 授業での活用の実例

(1) 単元名：第6学年「源頼朝と鎌倉武士」

(2) 指導計画（総時数7時間）

★ 単元の指導のねらい及び使用した学習資料についての詳細は

<<http://www.center.fks.ed.jp/08joho/tsuka/s/rinku.htm>>を参照して下さい。

時限	段階	内容	形態	指導の要点	留意点
1	課題把握	学習の課題をつかむ	一斉	○ 武士による政治の始まりについて課題意識を持つことができる。	○ 武士による全国支配についての学習意欲を高め、学習の課題意識を持たせるように絵図の掲示を工夫する。
	オリエンテーション	学習の見通しを持つ	一斉	○ 課題解決のための学習の見通しを立てることができる。	○ 課題解決のための見通しを持たせるために、学習カードを作成させる。
2	追究	追究する ・源平の戦い ・鎌倉幕府 ・元との戦い	個別	○ 学習の見通しに従って、学習を進めることができる。	○ 学習カードをもとに学習に取り組ませるが、個に応じて変更、追加、削除について助言したり、使用する学習材について助言したりする。
			個別	○ 学習の結果を整理することができる。	○ 学習を進める上で困ったことや疑問点については、友達や教師、掲示板などを積極的に利用するよう知らせる。 ○ 学習が進んでいる児童に対しては、質問・意見コーナーに解決案を記入させたり、自己評価に取り組んだりするよう指示する。
5	発表	発表し合う	グループ	○ 学習の結果を発表しあい、検討することができる。	○ 自分の考えとその根拠となった資料を明確にするよう指示する。
6	まとめ	武士による全国支配についてまとめる	一斉	○ 発表の結果をもとに学習をまとめることができる。	○ 聞き手は、自分の考えとの相違点を比べさせて聞くようにするために、発表会カードを使用させる。
	自己評価	自己評価を行い達成感をチェックする	個別	○ 学習について自己診断することができる。	○ 元寇と鎌倉幕府の衰退について関連付けられるようにする。
7	補充・発展	おさらいで確かめたり、発展学習に取り組む	個別	○ 自己診断をもとに学習を広げたり、補ったりすることができる。	○ 自分の学習について、補充、発展学習を行えるような自己評価カードを準備する。
	総括評価	総括評価で学習診断をする	個別	○ 学習を振り返り、新たな学習への意欲を持つことができる。	○ 発展学習を行う児童についてはコンピュータを積極的に活用するよう指示し、補充学習を行う児童に直接指導できるようにする。

★ 掲示板の活用では、質問の仕方、自分の意見の書き方、参考になる資料の紹介の仕方等の確認を通して、効果的な発表の仕方、情報モラルに関する指導を行います。

(質問・意見コーナーを活用する児童)

